

第3回朝来市総合計画審議会グループ対話の内容

1 多様な学びで「やりたい」にチャレンジでき、未来をつくる「人」を育む

No.	施策名	事業実施方針	対話内容		
			伸ばしたいところ	アイデア、現状の課題・不安など	施策名・統合・順番など
1-1	シビックプライドと未来をつくる力を育む人材育成の充実	(1)朝来の未来を育む人材育成の充実			・「朝来」と「朝来市」の使用が混在している。整理が必要ではないか。
		(2)シビックプライドを育む地域での学びの充実			
1-2	まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進	(1)やりたいことにチャレンジできる生涯学習の推進		・子どもがおらず大人になってから朝来へ移住して来た人が生涯学習(地域)に触れる機会がない。	・1-1(2)の地域での学びと1-2(1)生涯学習の分け方がイメージしづらい。 ・施策順番は1-3、1-4の下に位置付ける。
		(2)市民の交流を生む生涯スポーツの推進			
		(3)学びを育む図書館の運営			
1-3	生きる力を育む幼児教育・学校教育の推進	(1)人と人のふれあいの中で豊かな心を育む教育の推進			・施策名に「生きる力」を出すのであれば、実施方針に「豊かな心」「学ぶ力」に加えて「生きる力」の実施方針も必要ではないか。 ・幼児教育と小中教育は分けた方が良いのではないか。
		(2)主体的な学ぶ力の向上			
1-4	多様な学びを支える教育・学習環境の整備	(1)安心して学べる教育・学習環境の整備		・多様な教育(フリースクール、自宅学習の受け入れ体制など)を認められると良い。 ・フリースクールに通学する際の定期券購入を認めてもらえるといい。 ・生徒数によってクラス定員が多くなっている。授業はクラスを分け少人数でしたり、フォロー体制を充実できると良い。	
		(2)一人ひとりの子どもの力を育む教職員の育成		・先生や子どもたちの学校以外の地域活動等が評価・評定される仕組みがあると良い。	・事業実施方針(2)「一人ひとりの子どもの力を育む教職員の育成」を「シビックプライドを育める～」に修正してはどうか。 ・ほかの実施方針に比べて「教職員」だけ具体的。教育・学習環境として(1)に入れても良いのではないか。
		(3)地域の恵みを感じる学校給食の充実			
1-5	多様性を尊重するまちづくり	(1)誰もが自分らしく生きられる人権啓発の推進	・小中高では人権に関する学びが充実している。	・幼児と大人が人権について学べる機会が少ない。	・施策名の「まちづくり」は概念が広がるため修正が必要ではないか。
		(2)男女共に活躍できる環境づくり			・女性が働きやすい環境づくりのために、2-1雇用と連携が必要。
1-6	豊かな心を育む芸術文化の振興	(1)市民の芸術文化活動の促進		・働く世代が関わることができるプログラムが少ない。働く世代の関わり度合いを強める取り組みが必要ではないか。 ・子どもたちが美術館などに行く校外学習があると良い。 ・市民が参加できる(オンライン、リアル)の選択肢が増えると良い。	
		(2)開かれた芸術文化施設の管理と運営		・市内在住者が行きやすい価格設定や割引チケットの配布などを検討してはどうか。	
全般的な意見等			■全体 ・施策名だけだと、各施策のターゲットや内容がイメージしづらい。 ・施策名は、市民が参画しやすい、内容をイメージしやすくする必要あるのではないか。例えば、子育てや生涯学習活動に縁がなくても、「受け入れられている」「自分にも関係のあること」だと思えば参画したり関心を持つきっかけになるため、そのような施策名や事業実施方針名が必要ではないか。 ■施策の順番 ・1→3→4→2→5→6の順に変更したほうが良い。		

2 人と自然が共生し、地域で循環する産業を確立する

No.	施策名	事業実施方針	対話内容		
			伸ばしたいところ	アイデア、現状の課題・不安など	施策名・統合・順番など
2-1	内発的な経済循環と多様な働き方の創出	(1)市内事業者の力を育む支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 市内の若い人が高齢者の方の事業を継承する。 行政による中間支援で民間同士をつないでいる。 職人技活用住宅改修支援で今ある事業者を応援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 後継者不足で市内事業所が1500社→900社に減っている。 事業所が市外へ移転する動きも出てきている。 商工会と市の情報共有が不足している。 市内の仕事が少ない。 継承意識が低い。 金融機関や行政がサポートして小さな市内企業にM&Aを検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 2-1「内発的な経済循環と多様な働き方の創出」は2の全ての施策に関連することであるため、施策順は最初が最後が良い。
		(2)多様な働き方を促進する起業支援			
		(3)朝来市の強みを生かした企業誘致			<ul style="list-style-type: none"> 「朝来」と「朝来市」の使用が混在している。
2-2	朝来の力になる観光まちづくり	(1)観光環境の整備・観光人材の育成		<ul style="list-style-type: none"> 観光客の受入れに市民が慣れていない。 観光地として良くなってきている朝来市の現状を市民が知らない。 観光のまちとしてののベースづくりが必要。 勉強会など市民が自分たちのまちを知る機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 施策名の「まちづくり」は概念が広がるため修正が必要ではないか。
		(2)観光による経済・交流の拡大		<ul style="list-style-type: none"> 地域通貨など観光事業者と他分野の事業者と一緒にまちを活性化する仕組みをつくる。 観光と他分野とのつながりが無い。 自然×観光、文化財×観光、など、横断的に朝来の魅力をみるコースづくりが必要ではないか。 はとバスのようにセットで市内をまわれる観光コースづくりを検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 着地型観光で農業体験などがあるため、2-3農業との連携が必要。
		(3)ネットワーク拡大による広域観光の推進			
2-3	時代にあわせて進化する農畜産業の振興	(1)農業の担い手と農業経営体の育成と強化		<ul style="list-style-type: none"> 移住者には手厚いが昔からいる高齢の農家のサポートが不十分。 農業で経済的にどう稼げるかが課題。 朝来で育つ子どもが農業を好きになるよう、子どもとの時から農業に携わる機会を作る。 今は農業も重労働じゃないということを伝える。 	
		(2)荒廃農地の発生防止と解消の推進		<ul style="list-style-type: none"> 農地が小さい。 農地を柔軟に活用して、地代もとれるような工夫が必要。 	
		(3)付加価値を高める農畜産業の経営支援			
2-4	自然を守り活かす林業の振興	(1)森林がもつ多面的な機能の確保		<ul style="list-style-type: none"> 山が良くないと田んぼに水が来ないことが知られていない。 山は人が行かないところというイメージ(柵で囲われて入れない)になっている。 	
		(2)林業の担い手育成と業態の多様化の促進		<ul style="list-style-type: none"> 山に携わるための学ぶ機会がない。(チェンソーの使い方を学ぶなど) 	
		(3)森林資源の有効活用の促進		<ul style="list-style-type: none"> 薪ストーブなど森林資源の活用を推進している自治体があるが、朝来市では取組が進んでいない。 	
2-5	人の営みとともにある自然との共生	(1)自然環境の把握・保全の推進		<ul style="list-style-type: none"> 自然を財産に変換することが必要。 	
		(2)自然環境の学びと活用の推進			
2-6	地域の誇りとなる歴史文化遺産の保存・活用	(1)歴史文化遺産の調査と保存・整備の推進		<ul style="list-style-type: none"> 文化財保全にも費用がかかるため、財産にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化遺産は誇りだけでなく地域で活用することにも必要であるため、施策名を「地域の誇りとなる歴史文化遺産の保存・活用」を「歴史文化遺産の地域の為になる保存・活用」に修正してはどうか。
		(2)歴史文化遺産の利活用の推進			
		(3)歴史文化遺産の普及啓発の推進			
全般的な意見等			<ul style="list-style-type: none"> ■全体について 全体が循環する仕組み(経済、観光、自然、文化財)の視点が大切。 観光客などに継続的にお金を落としてもらう工夫として、毎年来てもらえるような多くの楽しみ方やお得感が必要。 来てもらう→買ってもらう→体験してもらう→人のつながり→次のお客さん→次の魅力という循環が必要。 ■施策の順番 順番:1→2→6→5→3→4 自然が最初で、林業、農業の順が良いのではないか。 文化遺産は観光に関連するので近くが良いのではないか。 		

3 多様なつながり・交流を育み、地域力をより高める

No.	施策名	事業実施方針	対話内容		
			伸ばしたいところ	アイデア、現状の課題・不安など	施策名・統合・順番など
3-1	市民力を高める協働のまちづくりの推進	(1)多様な活動を育む仕組みづくりの推進		・相談などグループ活動に入る手前の活動する場所が不足している。地域の会館などを使うのには許可が要り、少しだけ使いたいときにハードルが高い。 ・もっと自由に、もっと手軽に、一歩踏み出せるようにする必要がある。 ・公園など屋外のフリースペースも不足している。	・「市民力を高める」は既に市民力は高いともいえる。「市民力が発揮できる」と修正をしてはどうか。
		(2)市民参画を促進する協働のまちづくりの推進		・区集会所やコミュニティセンターの使用に際し、まちづくり活動・地域活動の線引きが難しい。まちづくり活動・地域活動と活動する側が思っている、材料代などを集めると収益活動に捉えられ、施設によっては使用料が必要となる。何をもちまちづくり活動と捉え、活動を支援していくか線引きが難しい。 ・もっと気軽に、活動場所として区集会所やコミュニティセンターや生涯学習センターが使用できると良い。	
		(3)地域を元気にする地域おこし協力隊の配置	・外部からの刺激が地域に良い。 ・外部視点が入ることで地域の資源の活かし方が生まれている。	・地域おこし協力隊が来て欲しい地域に配置されないこともある。 ・現在は協力隊希望者の提案制であるが、地域側が希望する活動に対しての地域おこし協力隊の応募活動も並行して展開してほしい。 ・地域単位の配置にこだわらず、テーマなどで不足しているところへの配置を検討してはどうか。	・「地域おこし協力隊の配置」ではなく、「地域おこし協力隊の活用」の方がイメージに合う。
3-2	多様な人がつながる地域コミュニティの充実	(1)身近な暮らしを支える自治会活動の支援			・外国人の人も地域の一員になり、「多様な人」に含まれるため、3-5多文化共生との連携が必要。
		(2)多様な人が参加する地域自治協議会の支援		・地域自治協議会によっては、自由に相談したりできる場がある。地域自治協議会によって差がなく、市民の誰もが使いやすい場が必要ではないか。 ・地域自治協議会によって誰もが参画しやすい地域もあれば参画しづらい地域もある。誰もが参画しやすいことが必要ではないか。	
3-3	まちの仲間になる移住定住の推進	(1)地域と進める移住定住の推進			・2-1雇用との連携が必要。
		(2)多様な出会いの場づくり		・出会いは、構えてしまうので、もっと自由で気軽な方が良いのではないかと。 ・事業実施の際には、もっと参加しやすいイベント名にする方が良い。 ・イベントに年齢制限などは無い方が良い。	・「多様な出会いの場」ではなく「自然な出会いの場」が良いのではないかと。
3-4	まちを応援する関係人口の創出	(1)地域とつながる関係人口の創出			・3-1地域おこし協力隊との連携は可能ではないか。
		(2)まちの活力になる国内交流の推進			
3-5	未来につながる多文化共生の推進	(1)ともにつくる多文化共生の推進		・在住外国人の人にまちで出会うことが多いがコミュニケーションがない。 ・挨拶はするが、どうやってつながっていいのかわからない。 ・在住外国人と市民や地域とのつながりが必要。	・3-2地域コミュニティとの連携が必要。
		(2)グローバル社会に向けた国際交流の推進			
全般的な意見等			・施策横断的な取組があるので、連携するものを示すマークなどを設けて、連携を見えるようにしてはどうか。		

4 誰もが居場所や役割を持ち、健幸で心豊かな暮らしを実感できる

No.	施策名	事業実施方針	対話内容		
			伸ばしたいところ	アイデア、現状の課題・不安など	施策名・統合・順番など
4-1	一人ひとりが地域とつながる地域共生社会の実現	(1) 誰もが居場所がある地域共生社会の実現		・引きこもりの状況を地域では把握していても、携わり方が分からない。	・4-1(1)「誰もが」を「誰にも」に修正。 ・3-5在住外国人施策との連携が必要。
		(2) 関係機関との連携による地域福祉の推進			
4-2	地域みんなで安心できる子育ての充実	(1) 家族・子どもに寄り添う子育て支援施設・制度の充実		・子育て中の方が一人で頑張りすぎず、SOSを出しやすくすることが大切。	・4-2地域みんなで安心できる子育ての充実には、「たよりやすい」、「助け合える」、「助け合いの循環」の意味合いが追加されても良いのではないかと。
		(2) 安心して妊娠・出産・子育てができる切れ目のない支援			
4-3	いつまでも自分らしく活躍できる高齢社会の実現	(1) 地域で支える高齢者の健康と生きがいづくり	・社会参画できることが生きがいにつながっている。	・希望に応じた社会参画(働く、活動など)ができることが必要。	・2-1企業との連携による仕事・就業の確保が必要。
		(2) 高齢者も家族も安全・安心に暮らせる仕組みづくり			
4-4	障害のある人の居場所と役割がある自立支援の充実	(1) みんなで支える障害者(児)の生活の支援		・障害をお持ちの方でも、地域等で気軽にSOSを出しやすくしていくことが必要。	・(2)「障害者の個性を伸ばす社会参加の促進」を経済的な自立も含め「障害者の個性を伸ばし生かす社会参加の促進」に修正してはどうか。 ・障害者の個性に応じた働き方が実現できるようにするため、2-1企業と2-3農業との連携が必要。
		(2) 障害者の個性を伸ばす社会参加の促進	・障害者の仕事として、市内企業や農業との連携が少しではあるが行われている。	・得意を活かした仕事で自立生活に繋げることが大切。 ・視覚障害者数など人数が少ない障害の場合は、障害者相互のコミュニティもなく、障害者が今の状況をあきらめない、妥協していることがある。より良くしていけるために声を出し、誰にとっても気兼ねなく暮らせる社会が大切。	
4-5	安心できる医療体制の充実	(1) 安心な地域医療体制の充実			
		(2) 安心な救急医療体制の確保			
		(3) 安心して出産に臨める周産期医療体制の充実			
		(4) みんなで助け合う献血事業の推進			
4-6	こころとからだの幸せになる健康(健幸)づくりの推進	(1) 地域・企業と進める健康(健幸)づくり			・健康(健幸)は健幸(健康)の表記に統一したほうが良い。 ・4-3高齢者の健康、4-5医療との連携が必要。
		(2) 病気の予防とこころの健康づくりの推進		・心の病気は自分が頑張りすぎて周りにSOSを求めないことが多い。SOSを出しやすくしていく雰囲気づくりが大切ではないか。 ・心の病気は地域で分かっている携わりにくい。	
		(3) みんなで取り組む感染症予防対策の推進			
全般的な意見等			<p>「4 誰もが居場所や役割を持ち、健幸で心豊かな暮らしを実感できる」について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが役割を持たないといけないのかと受け取れる。 ・「誰もが居場所を持ち、生きがいのある、健幸で・・・」としてはどうか。 		

5 市民の暮らしを支える安全・安心な都市基盤を持続する

No.	施策名	事業実施方針	対話内容		
			伸ばしたいところ	アイデア、現状の課題・不安など	施策名・統合・順番など
5-1	自然・産業・暮らしを創造する土地利用の推進	(1)次世代の暮らしを創造する土地利用の推進	・土地はいっぱいある。		・施策名に、「次世代の」を追加してはどうか。 ・「次世代」とはどの世代を指すのか分かりづらい。
		(2)潤いある地域整備の推進		・子どもを遊ばせられる公園が少ない。 ・市内のファミリーも市外のファミリーも遊びに来るような公園をつくる。(地元の物を買うことができる道の駅が併設されているとなお良いのではないか。)	
		(3)着実な地籍調査の推進			
5-2	地球に優しいエネルギーと資源の循環の推進	(1)新エネルギー等による低炭素社会の実現		・「新エネルギー」は、市民の感覚との乖離している。 ・大切な取組だが、市民への伝え方が難しい。	・施策名「地球に優しいエネルギーと資源の循環の推進」についてエネルギーと資源の順番が逆の方が良いのではないか。 ・事業実施方針の順番:3→1→2 ・事業実施方針の名称について、「新エネルギー等」が何を指すか分かりづらい。
		(2)みんなで取り組むゴミの減量と再資源化		・高齢化もあり、ゴミステーションが荒れている。 ・ごみの減量と再資源化について、「どうして必要なのか」を伝える必要がある。	
		(3)快適な生活環境の保全と維持			
5-3	暮らしを豊かにする公共交通の確保	(1)暮らしに密着した市内交通の充実		・車を手放すと、市民の暮らしに直結し、困る。 ・自動運転、地域で運営するタクシーなどを新たな交通手段の導入を検討することが必要ではないか。	
		(2)広域交通の利便性向上と利用の促進			
5-4	日頃からみんなで備える災害に強いまちづくり	(1)安全・安心な防災体制の整備			
		(2)みんなで取り組む地域防災力の強化		・地域コミュニティの弱体化により防災等への不安がある。 ・車移動で人に遭わない暮らしや、近所に新しく住む人も知らない状況で、地域防災力に不安がある。	・3-2地域コミュニティとの連携が必要。
		(3)地域の安全・安心を守る消防体制の充実		・屋間の集落の平均年齢は高齢化しており昼間の消防体制に不安を感じる。昼と夜とは違う考え方で対応していくことが必要ではないか。	
5-5	暮らしを守る防犯・交通安全の推進	(1)地域と一体となった防犯活動の推進		・最近「田舎だから安全」と言い切れない状態である。	
		(2)子どもから大人まで一緒に取り組む交通安全の推進			
5-6	暮らしを支える上下水道の維持管理・運営	(1)持続可能な上水道事業の運営			・事業実施方針の「持続可能な」について、市民は上下水道を「あたりまえ」と思っているため驚いてしまうかもしれない。
		(2)持続可能な下水道事業の運営			・事業実施方針の「持続可能な」について、市民は上下水道を「あたりまえ」と思っているため驚いてしまうかもしれない。
5-7	生活基盤の持続可能な維持管理・確保	(1)暮らしとともにある生活道路等の整備			
		(2)安全で快適な市営住宅等の維持管理			
全般的な意見等			・施策の順番:4.5を上にして、4→5→3→6→7→2→1としてはどうか。 ・暗くなりがちな取組みなので明るさを見せたい。		

6 まちの動きや情報を戦略的につなぎ、効率的で健全な行財政運営を実現する

No.	施策名	事業実施方針	対話内容		
			伸ばしたいところ	アイデア、現状の課題・不安など	施策名・統合・順番など
6-1	対話による開かれた広聴の充実	(1) 市民と行政の対話の場の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・広聴の機会が充実してきている。 ・市民のオンラインの対話の場(Hello ASAGOING Net)を不定期で良いので開催し続けてくれると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民フォーラムなど決まった時間に参加できない(仕事、子どもの習い事、自分の趣味の大会など)。 ・開催の仕方を多様化することで新しい参加者も出てくるはず(オンライン、気軽に参加できるフラットな会など) 	
		(2) 市民の意見を反映する機会の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・会のタイトルに"トーク"などついていると固定概念に囚われて行きづらい。タイトルに"トーク"などつけない方がよい。 ・話を聞く場だけでなく、朝来市の応援団を作る場として捉えてはどうか。 ・市民が集まってもらうだけでなく、イベントに出張して話を聞くことも方法として考えられる。 ・子どもが集まる場に話を聞きに行き保護者の意見を聞くことも方法として考えられる。 	
		(3) 市民に開かれた情報公開の推進			
6-2	伝えたいところに届く戦略的な情報発信の推進	(1) 市民生活に寄り添った情報発信の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれで情報発信をするのではなく、広報誌からLINEへ、LINEからホームページへ誘導するなど、異なる情報媒体の情報をつないでいくことが大切ではないか。 ・朝来市の求人情報、商工会情報など広い意味での朝来市情報も広報できない。 	
		(2) ターゲット層に届く情報発信の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・市の広報誌に民間の情報を載せられない。 ・民間の情報を載せられる媒体、又は枠組み、仕組みが必要ではないか。 ・朝来市の情報が毎週配信されるタブレットを配布して情報を一元化(1家に1台) 	
		(3) ケーブルテレビの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言中の教員から子どもたちに向けたケーブルテレビ放送は良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賃貸マンションなどケーブルテレビがなかったり、新聞をとらない市民は、市の情報を得にくい。 	
6-3	効果的かつ効率的な行政運営の推進	(1) 行政マネジメントの推進			<ul style="list-style-type: none"> ・施策名を、「～行政運営の推進」を「～行財政運営の推進」に変更し、6-4と統合。
		(2) 行財政改革の推進			<ul style="list-style-type: none"> ・実施方針を(1)(2)と統合。
		(3) 将来を見据えた公共施設の再配置		<ul style="list-style-type: none"> ・まちの縮退の見せ方を考えていく必要がある。 ・「このままどうなるよ」というリアルな話があると先を考えやすい。 	
		(4) ICTを活用したスマート自治体への転換			
6-4	持続可能で自律した財政運営の推進	(1) 健全な財政運営			<ul style="list-style-type: none"> ・施策を「6-3」に統合。
		(2) 財源の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税を引き続き頑張る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実施方針を(1)(2)と統合。
6-5	市民とともにある職員の育成・組織力の強化	(1) 社会情勢の変化に対応できる組織体制の構築			
		(2) 市民に信頼される職員の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・若手だけでなく、各階層に応じた職員研修が必要。 ・地域活動や市民活動に職員が参加し、地域の人のつながりを増やすことで信頼関係を構築する。 	
6-6	広域行政組織等団体との連携の推進	(1) 共同事務の実施			
		(2) 強みを活かす広域連携による地域活性化			
		(3) 専門性を活かす大学連携の推進			
		(4) 災害時における応援連携の推進			